

令和4年度事業計画

本研究所は、平成29年3月に創立60周年を迎えた。令和3年度は公益財団法人としての8年目の活動を終えるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の縮小を余儀なくされ、公開シンポジウム、学術交流は中止・延期となった。哲学講座については、オンライン配信が主流となり、東京や名古屋などから講師を招くことができた。また、役員が講師を務め、講師・参加者双方がオンラインで行う「オンライン講義シリーズ」を新たに事業として始めた。年報『文明と哲学』の刊行等、出版事業は着実に遂行してきた。

令和4年度においても、オンラインの活用など新しい手法をとりいれながら、多様なプログラムを提供することにより、本研究所の公益目的事業を堅実に継続し、60年の歴史を有する法人にふさわしい事業運営を実施する。

1. 日独学術文化に関する研究並びにその助成（定款第4条第1項第1号）

公開シンポジウム

連続テーマ「文明」の4回目として、第30回公開シンポジウムを開催する。

2. 日独学術文化に関する図書雑誌の編集及び出版刊行（定款第4条第1項第2号）

年報『文明と哲学』第15号を刊行する。

3. 日独学術文化に関する講習会、講演会及び談話会等の開催（定款第4条第1項第2号）

哲学講座の開講

一般市民、学生、研究者を対象とする哲学講座を、初夏、中秋、初春の3期に開講する（1期6回）。テーマを哲学（初夏）、日本思想（中秋）、精神医学（初春）とし、それぞれに相応しい講師を迎える。

オンライン講義の開講

役員が講師を務め、一般市民、学生、研究者を対象とするオンライン配信のみの講義を随時開講する。第1シリーズの後半、並びに第3シリーズを開講する。

4. 日独学術文化に関する図書及び資料の収集並びに公開（定款第4条第1項第4号）

『所報』第11号を発行し、関係者及び関係団体へ配付する。

ホームページに日常の活動を随時掲載し、SNSによる発信を充実させる。

地下書庫の蔵書の公開体制を整える。

5. 日独学術文化に関する研究者の招待、派遣及び交換（定款第4条第1項第5号）

哲学系・医学系においては、原則として役員の在籍する国内の大学等と連携して、

主にドイツ語圏から研究者を招待し、講演会、シンポジウム等を開催する。

具体的には、京都で国際交流ワークショップ「西谷啓治〈出会いの本質〉論をめぐって 日独の若手研究者によるゼミナール」を開催する。

法学系においては役員の在籍する国内の大学等と連携して、主にドイツ語圏から研究者を招待し、講演会、シンポジウム等を開催する。

ハノーヴァー哲学研究所との連携を継続する。

以上